

- 全体最適かつ効率的な国・地方を通じたネットワーク基盤や、より強固なセキュリティやテレワーク等の柔軟な働き方など、**国・地方ネットワークの将来像の実現に向けた検証を実施**する。
- 検証の実施に当たって**参加する地方自治体（検証事業者と共同）を公募**する。

## (1) 検証の目的

「国・地方ネットワークの将来像及び実現シナリオに関する検討会」報告書（令和6年5月公表）において2030年頃の将来像として示された「国民・住民に、国・地方の行政サービスを、柔軟かつセキュア、安定的に提供すること」「国・地方のネットワーク基盤の共用化によりネットワークの効率性が向上すること」「国・地方の職員が、セキュリティを確保しつつ、一人一台のPCで効率的に業務ができ、テレワーク等の柔軟な働き方が可能になること」の実現に向けて、**①国・地方の適切な役割分担の下、国が主体的に整備するネットワーク基盤の共用化、②地方のネットワーク上のシステムへのゼロトラストアーキテクチャの考え方の導入**について、実現性や導入効果の確認、課題や考慮点を抽出する。

## (2) 検証環境

本番運用環境とは分離された検証環境を構築する。

## (3) 検証方式

地方自治体は下記のいずれかの方式を選択し応募すること。

GSS利用方式 デジタル庁が整備・運用するガバメントソリューションサービス（GSS）を利用する方式（①と②の検証）

自治体提案方式 上記報告書Ⅱ(2)を踏まえ、自治体が提案する方式（②の検証）

※両方式あわせて数件程度のプロジェクトの実施を予定している（所要経費は調整中）

## (4) 公募自治体

検証事業者と共同で応募すること。複数の地方自治体が共同で検証することが望ましい。

※検証事業者の役割は、検証用システムの構築や現行ネットワーク・業務フローの把握、接続支援、検証結果のとりまとめ支援等が考えられる。

## (5) 令和6年度補正予算額

7.5億円

## (6) スケジュール（案）

令和7年2月上旬に自治体公募開始／審査を経て順次採択／採択後事業開始／令和8年3月事業終了

※実現可能性、実用性（他団体への横展開のしやすさ）、セキュリティ面等を考慮し、外部有識者等による審査を経て採択する。

## (7) その他

国は、地方自治体における検証と並行し、費用対効果を踏まえた国・地方のネットワークの実現方法等について検討する。

# 検証の観点

## ① 仮想化技術の活用と基盤の共用化

### 1. 基盤の活用検討

- 国・地方のネットワーク基盤の共用化の実現性や効果等を検証すること

### 2. 課題の整理

- 国・地方のネットワーク基盤を共用化する場合の課題等を整理すること（地方自治体がGSSを利用する可能性等について確認）

### 3. 運用管理体制・コストの検討

- 国・地方ネットワークを共用化する場合に必要な作業の洗い出しを行うとともに、コスト、運用に係る負荷等を明確化すること
- ネットワークの運用主体の在り方や、責任分界点、共用化の範囲を明確化すること

## ② ゼロトラストアーキテクチャの考え方の導入

### 1. 実装する手法の検討

- ユーザー、デバイス、各システム等において、常時認証を行い、必要なアクセス権の認可や監視、ログ収集を実施するなど、外部、内部問わず正当な権限者のみが重要性の異なる情報に対してセキュアにアクセスできる方策について検証すること
- 各システム間で必要なデータ連携がセキュアに実施できることを検証すること
- 庁舎外業務時において、各業務で利用する情報にセキュアにアクセスできる方法について検証すること

### 2. 業務の利便性向上の確認

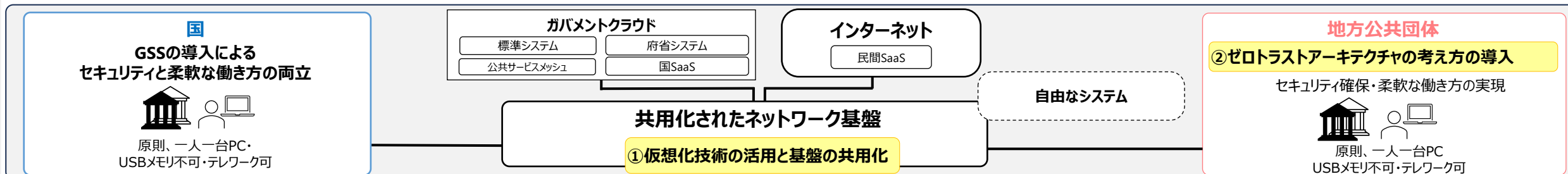
- ゼロトラストアーキテクチャを導入することにより、業務方法等に变化のある部分を特定し、特定した業務について、導入前後で利便性や作業負荷の増減について検証すること

### 3. 課題の整理

- ゼロトラストアーキテクチャを実現する各機能（GSSを活用する場合には、GSSの提供するソリューション）を導入し、導入時の課題等を整理すること
- 地方公共団体の規模に応じた課題等を整理すること

### 4. 運用管理体制・コストの検討

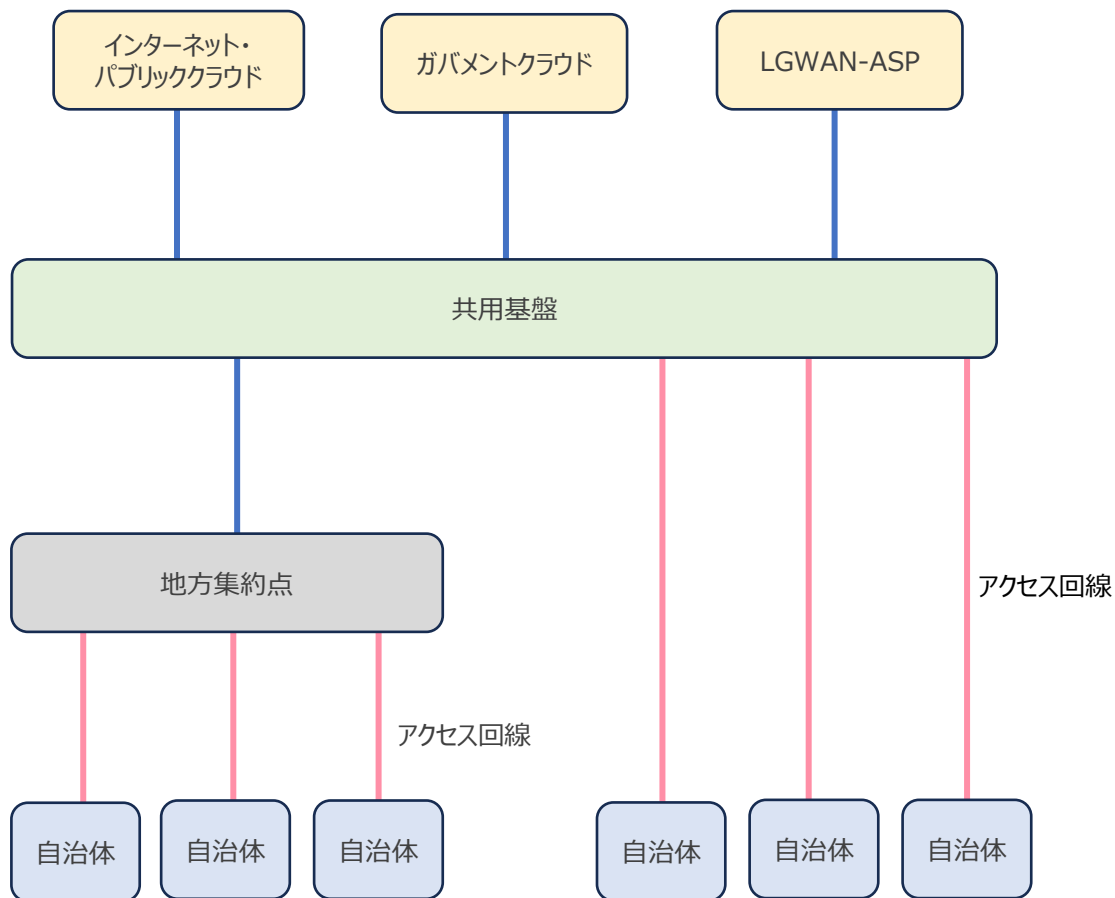
- 1. に記載の手法等に係る作業負荷やコスト、難易度を勘案し、国・都道府県・市区町村等で実施すべき業務の役割分担を検討すること
- ゼロトラストアーキテクチャを導入した場合の運用管理業務の作業負荷やコスト、難易度について、導入前後での増減について検証すること



# 検証イメージ

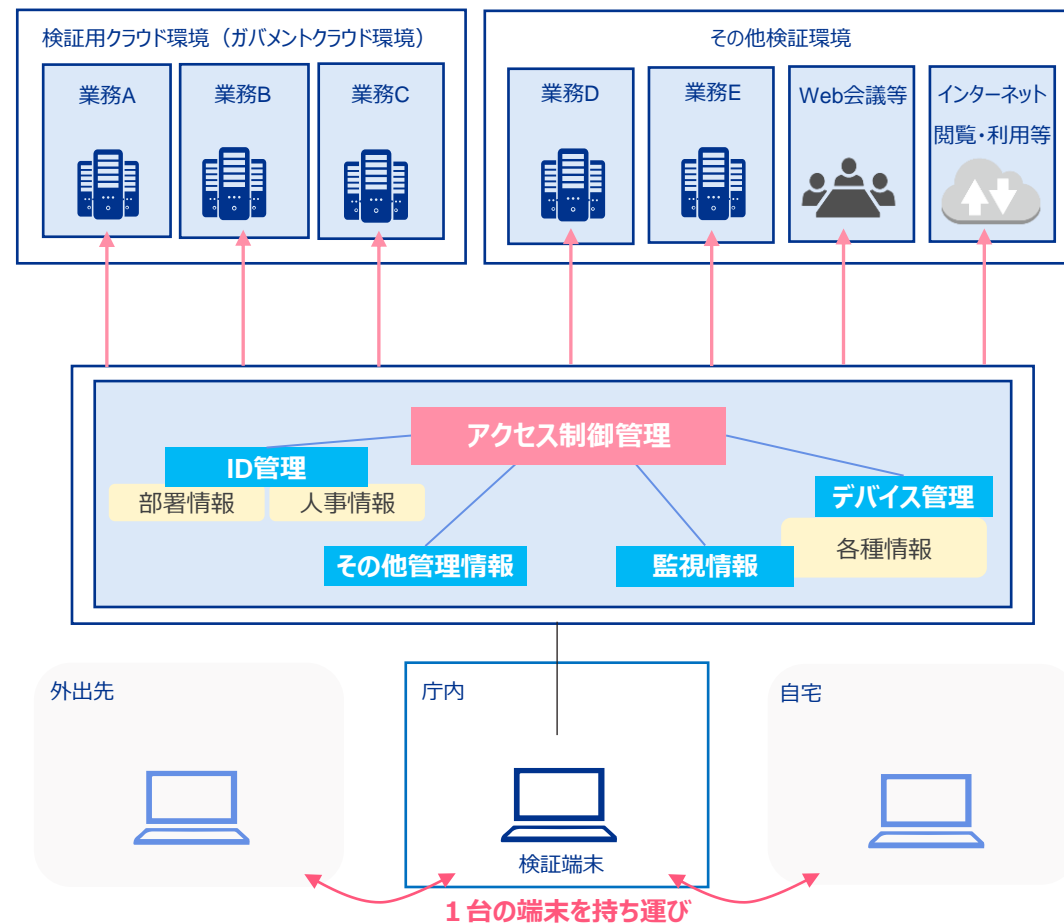
## ①仮想化技術の活用と基盤の共用化

仮想化技術の活用により柔軟で可用性の高い論理ネットワークを構築するなど、国・地方のネットワーク基盤の共用化について検証を行う



## ②ゼロトラストアーキテクチャの考え方の導入

ユーザー、デバイス、各システム等において、常時認証を行い、必要なアクセス権の認可や監視、ログ収集・分析を実施するなど、ネットワーク上には外部/内部を問わず脅威が存在する前提に立ち、「トラスト・ゾーンを極小化する」というゼロトラストアーキテクチャの考え方に基づいた検証を行う



※検証端末においては検証環境上の情報のみを取り扱うこととし、実在する住民の個人情報には取り扱わない。

※国は、地方自治体における検証と並行し、費用対効果を踏まえた国・地方のネットワークの実現方法等について検討する。